

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11076

研究課題名（和文）在宅で障害児を育てる両親のコペアレンティングの特徴と支援方法に関する研究

研究課題名（英文）Research on characteristics and support method of parents' coparenting to bring up disabled children at home

研究代表者

鈴木 江利子（SUZUKI, ERIKO）

順天堂大学・保健看護学部・講師

研究者番号：10805443

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：在宅で障がい児を育てる親のコペアレンティングは、健常児の親よりも有意に高かったが、QOLは、有意に低値であった。親のQOLには、家事・育児の分担やサポートをすることが、複合的に関連していた。その反面、障がい児の親は、両親間のコペアレンティングや親自身もつ親としての心のあり様が基盤となって、自己実現に至っていた。地域の保健・医療・福祉・教育に携わる専門職が、障がい児の家族支援として、親のコペアレンティングの状況とQOLの把握をし情報共有することの重要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、在宅で障がい児を育てる親のQOLには、コペアレンティングや他の要素が複合的に関連していたことから、親を支援する看護師同士や他職種が、コペアレンティングやQOLの情報を共有することによりシームレスな支援が実現できる。より良いQOLの維持のために多角的な早期の支援が可能となる。両親のQOLの向上は、子どものQOLにも影響を及ぼすため、家族全体のQOLの維持・向上に寄与できることが期待できる。

研究成果の概要（英文）：Co-parenting of parents raising children with disabilities at home was significantly higher than that of parents of healthy children, but quality of life was significantly lower. Parents' quality of life was associated with a combination of sharing household chores and childcare and providing support. On the other hand, parents of children with disabilities based their self-actualisation on co-parenting between parents and their own parental mindset. The study suggested the importance of professionals involved in health, medical care, welfare and education in the community to understand and share information on the status of parental coparenting and quality of life in order to support the families of children with disabilities.

研究分野：在宅看護学

キーワード：障がい児 コペアレンティング QOL 家族支援 在宅 母親 QOL 父親

1. 研究開始当初の背景

2006年の身体障害児・者実態調査によると在宅で生活している18歳未満の身体障害児数は、9万3,100人と推計される。前回2001年の推計数と比較すると1万1,200人(12.0%)増加している(厚労省,2008)。その背景には、救急医療の発達、新生児医療の高度化・救命率の上昇がある。医療的ケアを必要とする小児は、2015年は、1万7,000人いると推定され、2005年より7,600人(44.7%)増加している。更に在院日数の短縮により、在宅への療養移行が加速し、在宅で生活する身体障害児数が増加している。

障害児を持つ親は、我が子の障害を受容し、在宅で療育を開始する。しかし、障がい児の家族の直面しやすい危機は、障害を告げられた時だけでなく幼稚園、小学校、中学校、高等学校の学校への移行期に陥りやすい(河野,2005)。また、2017年度児童相談所での児童虐待相談対応件数は、133,778件(速報値)で、対前年度比は、109.1%であった。被虐待の子ども側のリスク要因には、障害児、何らかの育てにくさがあげられる(厚労省,2017)。障害児を育てる母親は、身体的負担に加え抑うつ傾向が強いが、父親による子育ての関与が母親の育児ストレスや不安を軽減させる(善生,2005)。また、在宅での障害児の家族支援にあたっては、養育者のケアに関する知識や技術だけでなく、ケアを継続するための基盤となる養育者自身のQOLが重要なアウトカムになっている。さらに障がい児の療育の困難さが親自身のQOLを低下させている現状がある。近年、一方の親の育児やサポートに焦点を当てるのではなく、コペアレンティング、すなわち、両親が親としての役割をどのように一緒に行うか(Feingberg,2003)という概念に基づく研究が行われている。海外の研究では、コペアレンティングの促進は、親の育児ストレスや産後うつ病の減少、夫婦の親密度の向上、子供の問題行動を減少させることが明らかになった。逆に子供の条件も親のコペアレンティングに何らかの影響を及ぼすことが分かっており、子供の気質において、扱いやすい子供ではポジティブなコペアレンティングがより高く、扱いにくい子供ではより低い(Davis,2009)と報告されている。

在宅で障がい児を育てる両親のコペアレンティングの特徴や関連因子および支援方法に関する報告はなく、障がい児をもつ両親のコペアレンティング形成の評価を行い、促進に向けた支援方法を確立することが重要である。本研究では、障がい児を育てる両親において、療育困難な状況でありながらも、コペアレンティングを形成し、在宅療育を継続している両親が存在することに着眼し、その要因の明確化、ニーズの明確化により、コペアレンティングを促進するための支援方法の示唆を得る。

2. 研究の目的

在宅で障害児を育てる両親のコペアレンティングおよびQOLの特徴および関連因子を明らかにする。さらに在宅において障がい児の両親に対して、訪問看護師が行っているコペアレンティングへの支援の現状を明らかにすることによって両親のコペアレンティングの形成、促進に向けた支援の示唆を得る。

3. 研究の方法

(1) 健常児および障がい児の親を対象としたQOLとコペアレンティングの2群比較による無記名自記式横断的研究 (アンケート調査)

障がい児の親については、全国のWeb上で公開している身体および知的障がい児の親の会に在籍し、在宅で0~18歳未満の障がい児を育てている保護者を対象とした。本研究では、子どもの障がいは、重複障がいと考えられ、障がいを持つ子どもを育てる親を対象とした。健常児の親は、オンラインマーケティング会社に登録している0歳~18歳未満の保護者300名。健康関連QOL尺度(以下:SF-12)は8つの健康概念を5段階のリッカート評価をする。日本語版コペアレンティング関係尺度(以下:CRS-J)は、7つの下位項目があり6段階のリッカート評価を行った。障がい児の親には、子の障害の程度、社会資源。分析方法はSPSS Statistcs26を用いて、記述統計、健常児と障害児の親のt検定を行った。

(2) 障がい児の親の健康関連QOLの関連要因の明確化

障がい児の親の個人要因(年齢、家族構成、職業の有無等)と子の要因(障がいの種類やケアの状況) ソーシャルサポートの活用状況に加え、コペアレンティングが障がい児の親のQOLにどのような関連を持つのかを明らかにするために、階層的重回帰分析を行った($p<0.05$)。本研究では、独立変数の種類が多いため、調整した変数を段階的に投入することで、各変数のそれぞれのモデルにおける説明力の変化が明らかになるため、階層的重回帰分析を採用した。データ解析には、SPSS Statistcs26を用いた。検定の有意水準は、 $p<0.05$ とした。

(3) 在宅で障がい児を育てる親のコペアレンティングとQOLに関する質的記述的研究

(1)のアンケート調査で依頼した障がい児の親の会の会長から紹介された親で、在宅で0~18歳未満の障がい児を育てており、研究参加の承諾が得られた父親4名、母親8名親にインタビューガイドに基づき、半構成的インタビューを行った。データ分析の結果の信頼性・妥当性を確保するために、地域・在宅看護学領域の研究者より、スーパーバイズを受け検討、修正を行い、信頼性を高めた。インタビュー内容の分類には、Nvivo12を用いた。コードリストを作成し、内容の類似性に基づいてサブカテゴリーを付けた。サブカテゴリー間の類似性に基づいて、

カテゴリーを付けた。2名の研究者で再度逐語録に戻り、本来の意味とカテゴリーの整合性の確認と修正を行った。各カテゴリー、サブカテゴリー間の関連性を「コペアレディング」、「QOL」、「その他の関連要因」の関連性について、構造化した。

(4) 在宅で障がい児を育てる両親に訪問看護師が行う支援に関する調査

A 県の訪問看護ステーションに在籍し、在宅で障がい児を育てる親の訪問看護経験がある訪問看護師を対象とした。Google フォームを使用した Web アンケート調査を行った。研究参加者の基本属性、両親のコペアレディングの支援の実態について、記述統計を行う。自由記述内容について、両親のコペアレディングの把握内容と必要な支援に焦点をあて、カテゴリー化し内容を分類した。

4. 研究成果

(1) 健常児および障がい児の親を対象とした QOL とコペアレディングの 2 群比較による無記名自記式横断的研究 (アンケート調査)

健常児の親は、371 名(男性 181 名、女性 189)有効回答率 100%であった。有効回答者のうち、子どもの年齢が 18 歳以上の親 9 名とひとり親で無回答だった者 1 名を除外し、132 名(男性 37 名、女性 95 名)を有効回答(有効回答率 93.0%)とした。CRS-J の障がい児と健常児の親の比較では、《育児の合意》《育児による親密性》《子どもの前でのめめ事》《障害》《パートナーの育児の承認》に有意差($p < 0.001 \sim 0.03$)が認められ、《育児の合意》、《育児による親密性》、《パートナーの育児の承認》の平均値は、障がい児の親が健常児の親より有意に高く、《子どもの前でのめめ事》、《障害》の平均値は障がい児の親が健常児の親より有意に低かった。

表 1 障害児の親と健常児の親のコペアレディング(CRS-J)の比較

CRS-J	障害児の親 (n=132)		健常児の親 (n=370)		P 値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
育児の合意	4.0	1.3	3.6	1.2	<0.001 **
育児による親密性	4.0	1.3	3.3	1.2	<0.001 **
子どもの前でのめめ事	1.1	1.0	1.5	1.3	0.008 **
サポート	3.2	1.6	2.9	1.5	0.115
障害	1.4	1.2	2.1	1.3	<0.001 **
パートナーの育児の承認	3.5	1.5	3.2	1.3	0.032 *
家事・育児の分担	3.5	2.1	3.5	1.6	0.776
コペアレディング関係尺度	2.2	1.2	1.8	1.3	<0.001 **

t 検定、* : $P < 0.05$ 、** : $P < 0.01$

SF-12 は、『身体機能』、『日常役割機能(身体)』、『体の痛み』、『全体的健康感』、『社会生活機能』、『日常生活機能(精神)』、『身体的健康』、『社会的健康』に有意差($p < 0.001 \sim 0.045$)が認められ、平均値はすべて障がい児の親が、健常児の親より低かった。『活力』、『心の健康』、『精神的健康』では、有意差がみられなかった(表 1)。

表 2 障害児の親と健常児の親の QOL (SF12) の比較

QOL (SF12)	障害児の親 (n=132)		健常児の親 (n=370)		P 値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
身体機能	50.5	8.8	52.4	9.5	0.045 *
日常役割機能(身体)	45.6	10.4	49.8	10.3	<0.001 **
体の痛み	48.4	9.9	51.3	10.0	0.004 **
全体的健康感	49.3	9.1	53.0	10.1	<0.001 **
活力	51.5	8.3	50.7	10.1	0.416
社会生活機能	47.1	12.0	49.7	10.8	0.022 *
日常生活機能(精神)	45.2	10.2	50.0	9.9	<0.001 **
心の健康	49.1	8.2	49.4	10.4	0.784

t 検定、* : $P < 0.05$ 、** : $P < 0.01$

(2) 障がい児の親の健康関連 QOL に関する要因の階層的重回帰分析

SF-12 の 8 つの概念に対して階層的重回帰分析を行った結果の概要をまとめた(表 3)。CRS-J の《家事・育児の分担》は、SF-12 の低い『日常役割機能(身体)』や『体の痛み』、『全体的健康感』と関連していた。しかし、CRS-J の高い《サポート》は、SF-12 の高い『活力』と関連があった。その他親の要因、子の要因、ソーシャルサポートに関連する要因が SF-12 の各概念と有意な関係性が認められた。

表 3 障がい児の親の健康関連 QOL に関する階層的重回帰分析

要因	SF-12	身体機能	日常役割機能(身体)	体の痛み	全体的健康感	活力	社会生活機能	日常役割機能(精神)	心の健康
コペアレンティング	-	-	家事育児の分担	家事育児の分担	家事育児の分担	サポート	-	-	-
親の要因	母親 養育時間	母親 養育時間	親の就業	親の就業 三世大家族	母親	高い年齢	養育時間	養育時間	養育時間
子の要因	不自由体幹	不自由上肢移動	-	呼吸障害	不自由下肢	不自由上肢 呼吸障害	視覚障害 不自由上肢移動	-	-
ソーシャルサポート	-	-	配偶者	保育所学校先生	-	-	身内 看護師	-	-

(3) 在宅で障がい児を育てる親のコペアレンティングと QOL に関する質的記述的研究

6 つのカテゴリー、16 のサブカテゴリー、319 のコードを抽出した。在宅で障がい児を育てている親は、【育児による健康や生活への影響】を受けながら生活していた。これは、障がい児の親の QOL を示していた。養育を継続したことから起きた変化として、【障がい児の育児から得られた自己実現】につながっていた。この QOL の変化に関連していた要因は、コペアレンティングと養育の支えがあったと考えられる。コペアレンティングには、【相互関係構築の基盤となる思考】と【意思の疎通や調整しあう育児】から構成されていた。【相互関係構築の基盤となる思考】を培っていた。【意思の疎通や調整しあう育児】を行っていたと考える。障がい児の親の養育生活を支えたのは、【多方面からの支援者の存在】があった。障がい児の親の養育を継続する重要な要因として抽出されたのが、【障がい児をもつ親としての心のあり様】であったという構造が明らかになった(図 1)。

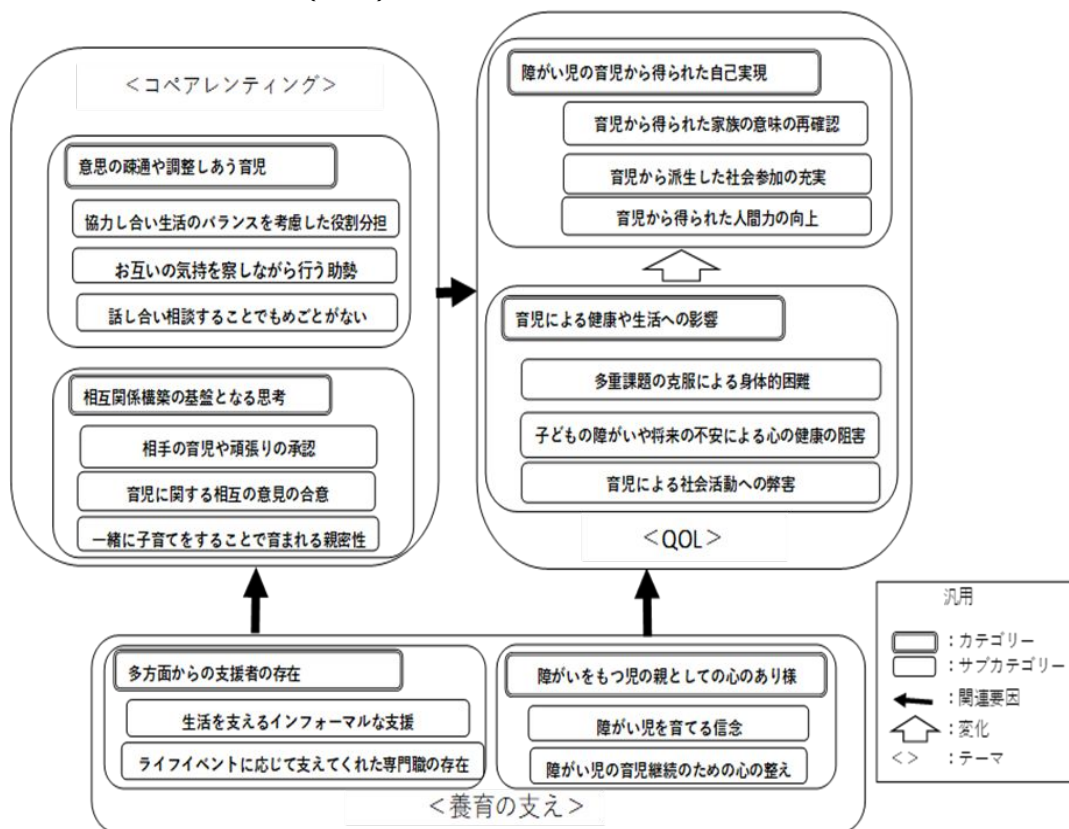


図 1 在宅で障がい児を育てる親のコペアレンティングと QOL と関連要因の構造

(4) 在宅で障がい児を育てる両親に訪問看護師が行う支援に関する調査

A 県の訪問看護ステーションに在籍し、障がい児の訪問看護経験がある訪問看護師で研究協力の申し出のあった看護師 52 名の内、38 名が回答し、73.0%の回収率であった。状況把握は内容ごとにみると、子育ての考え方については母親 84.2%、父親 44.7%、パートナーとの関係性については母親 78.9%、父親 39.5%、サポートについては母親 84.2%、父親 42.1%、育児の承認については、母親 76.3%、父親 47.4%、育児の公平性については、母親 65.7%、父親 44.8%だった。いずれも父親に対する状況把握は定値だった。

自由記述を質的記述的に分析した結果、43 のコード、11 のサブカテゴリ、7 つのカテゴリ月輸出された。訪問看護師は行うコペアレンティングへの支援内容は、どちらかの話を傾聴 とにかく会話【親の話を必ず傾聴】することから、まず、現在の子どもの【病状の共有化】を図り、子どもの健康状態の確認をすることを優先していた。おむつ交換 などの【日常生活援助】を行うことで、直接的支援をしていた。親の 家事育児の分担の把握 両親の生活状況の把握

何気ない様子観察 を通して、【日々の生活状況の把握】していた。観察して把握した 行動、会話からの解釈 両親の育児の見極め ることで両親の状況について【総合的な判断】をしていた。両親の意向を確かめる 不満の有無を聴く ことによって、現在の【両親の思いの確認】をしていた。両親を助けてくれる 協力者の存在を確かめる ことで、【支援者の存在確認】をしていた。現在、家事育児を行う 両親を褒める 両親の可能な育児の推奨 をすることで、【両親の育児の賛同】していた。

(5) 本研究のまとめ

本研究は、在宅で障がい児を育てている親のコペアレンティングと QOL の特徴とその関連性およびその他の関連要因を明らかにすることを目的に、障がい児及び健常児の親を対象とした 2 群比較による自記式質問紙による横断的研究と障がい児を持つ親の質的記述的研究を行い、現状を明らかにした。訪問看護師による障がい児の親のコペアレンティングへの支援を調査した。

在宅で障がい児を育てる親は、健常児の親よりも CRS-J は、高値を示した。しかし、SF-12 は、身体的側面及び社会的側面において低値を示していた。障がい児の親の SF-12 の 4 つの概念『日常役割機能(身体)』『体の痛み』『全体的健康感』『活力』には、CRS-J の下位尺度の一部である《家事・育児の分担》、《サポート》に加え、子の要因、親の要因、ソーシャルサポートが、複合的に関連していた。在宅で障がい児を育てる親は、養育による生活への影響を受けていた。しかし、【障がい児をもつ親としての心のあり様】が、支えとなり【障がい児の育児から得られた自己実現】に至っていた。障がい児を在宅で養育する親の支援として、看護職者は、保健・医療・福祉・教育の場で、障がい児の親のコペアレンティングの状況及び QOL を把握し、情報共有し、【障がい児を育てる親の心のあり様】に理解を示しつつ、切れ目のない支援が可能となる。

在宅で訪問看護師は、障がい児を育てる親のコペアレンティングの状況を把握していた。障がい児の家族を支えるために、他の看護師同士、多職種への情報共有をはかり、地域で障がい児の家族を見守り支えていくための共通の視点として、コペアレンティングの状況と QOL の把握していくことが重要である。

引用文献

- 1)内閣府.令和4年版障害者白書.障がい者の状況,(2023年6月30日現在).
<https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r04hakusho/zenbun/index-w.html>
- 2)Drotar D,Baskiewicz A,Irvin,N,A et al(1975):The adaptation of parents to the birth of an infant with a con-genitalmalformation: A hypothetical model.pe-diatrics., ; 56(5) : 710-717
- 3)Davis,E.F.,Schoppe-Sullivan,S.J.,Mangeldorf,S.C.,etal:The role of infant temperament in stability and change in coparenting across the first year of life.Parenting:Science and Practice2009 ; 143-159
- 4)河野望.障がい児者の家族に関する研究,立命館人間科学研究 2005 ; 3:15-27
- 5)善生まり子.重症心身障害児(者)と家族介護者の在宅介護ニーズと社会的支援の検討,埼玉県立大学紀要 2005 ; 7 :51-58
- 6)Feinberg,M.E.The internal Structure and ecological context of coparenting Aframework for research and intervention Parenting:Science and Practice2003;3:95-131.
- 7)武石陽子,中村康香,川尻舞衣子他.日本語版コペアレンティング関係尺度(CRS-J)の信頼性・妥当性の検証.日本母性看護学会誌 2017;17(1):11-20
- 8)福原俊一,鈴嶋よしみ.SF-36v2 日本語版マニュアル 2004.京都:特定非営利活動法人健康医療評価研究機構.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 斎藤麻子, 林亮, 川口千鶴, 小川典子, 藤尾祐子, 鈴木江利子	4. 巻 8
2. 論文標題 静岡県東部地区における在宅療養児の訪問看護の実態と課題-訪問看護師の語りから-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 順天堂大学保健看護研究	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川典子, 藤尾祐子, 鈴木江利子, 榎本佳子, 酒井太一	4. 巻 8
2. 論文標題 静岡県東部地域における医療介護福祉専門者間の地域連携・協働実践 (IPW)の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 順天堂大学保健看護研究	6. 最初と最後の頁 36-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鈴木江利子
2. 発表標題 在宅で障がい児を育てる親のコペアレンティングに関する研究 障がい児の親と健常児の親の比較
3. 学会等名 日本在宅ケア学会
4. 発表年 2024年～2025年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小川 典子 (OGAWA NORIKO) (30621726)	順天堂大学・保健看護学部・客員教授 (32620)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤尾 祐子 (FUJIO YUKO) (60637106)	順天堂大学・保健看護学部・教授 (32620)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関